



CONSTRUCTION  
ENVIRONMENTAL  
CONSULTING Co.

CORPORATE PROFILE

構造物調査診断・環境診断

 株式会社 建設環境コンサルティング

 株式会社 建設環境コンサルティング

## MESSAGE 挨拶

### 私たちは、 構造物調査から環境調査まで 安全安心を調査診断する 専門家集団です。

株式会社建設環境コンサルティングは「かけがえない命を守るために、一つでも多くの建物の安全性を高めたい。安全安心という何ものにも代えがたい幸せを、一人でも多くの方にお届けしたい。」その願いで会社をスタートさせ、その思いをカタチにするために、確かな技術と経験を創業以来積み重ねてきました。我が国では今、低炭素社会の実現や持続可能な社会に向けた取組において、建築物や土木構造物の社会インフラの長期的活用、そして私たちを取り巻く生活環境の安全安心をいかに確保するか等、その社会的要求はますます高まっており、これらの課題を解決するために私たちの技術があります。今後も、確かな技術と経験で安全安心を提供し、構造物および環境における調査診断の専門家集団として持続可能な社会の実現に寄与するため、たゆまぬ努力を続けてまいりますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## HISTORY 沿革

### 建設環境コンサルティングの歩み

- |              |                                                                              |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1989年(平成元年)  | 株式会社コンクリート診断センター設立(東京) 資本金1,000万円<br>主な事業としてコンクリート構造物の劣化調査及び非破壊検査を行う         |
| 1997年(平成9年)  | 一級建築士事務所(東京)開設                                                               |
| 2001年(平成13年) | 資本金4,800万に増資<br>一級建築士事務所(大阪)開設<br>コンクリートに関する診断業務をすべて担える体制となる                 |
| 2004年(平成16年) | 赤外線構造物診断システム「コンスファインダーⅢ」に参画                                                  |
| 2008年(平成20年) | 支店の設置(札幌、仙台、名古屋、大阪、松山、福岡)                                                    |
| 2009年(平成21年) | 環境に対する事業の拡大                                                                  |
| 2010年(平成22年) | 本社を大阪市中央区常盤町に移転 支店の設置(東京)<br>一級建築士事務所(福岡)開設                                  |
| 2011年(平成23年) | 高精度外壁仕上げ検査システム「コンスファインダーANRシステム」が<br>一般財団法人日本建築センターより技術審査証明(BCJ-審査証明-194)を取得 |
| 2012年(平成24年) | 計量証明事業(音圧レベル)(振動加速度レベル)登録<br>エンジニアリング・レポート業務を開始                              |
| 2015年(平成27年) | 本社を大阪市中央区北浜東に移転<br>営業所の設置(横浜)                                                |
| 2017年(平成29年) | 株式会社建設環境コンサルティングに社名変更                                                        |
| 2018年(平成30年) | 営業所の設置(千葉)                                                                   |
| 2019年(平成31年) | 土壌汚染対策法指定調査機関登録                                                              |
| 2024年(令和6年)  | 作業環境測定機関登録<br>分析ラボラトリーの設定                                                    |

## CORPORATE POLICY 企業理念

事業活動を通じ、よりよい社会基盤構築に尽力し、  
幸せな環境造りに貢献する。

## GROUP COMPANY グループ会社

高い技術力と経験を持つ各グループ会社の連携により  
幅広い対応が可能です。

### 株式会社 コンステックホールディングス

構造物調査・環境調査  
不動産評価・資産評価

株式会社 建設環境コンサルティング

調査診断・補修・補強・耐震改修  
環境対策工事・鉄骨製品・加工製作

株式会社 コンステック



土木構造物の各種設計・解析

株式会社 バウエンジニアリング

地盤改良工事・一般土木工事・  
工法開発販売・機材リース

株式会社 グランテック

一般土木工事・システム開発販売・性能評価試験支援

株式会社 コーナンシステムズ



# 建物の調査・診断から 長寿命化の提案までトータルに行います。

深化  
INVESTIGATION AND DIAGNOSIS

## 調査・診断

### 耐力度調査/長寿命化調査

老朽化した建物に対して必要な調査を実施し、耐力度や長寿命化を総合的に診断した報告書をまとめます。



かぶり厚の測定



鉄筋の腐食度



中性化深さ測定



超音波による健全性調査

### 非破壊・微破壊検査

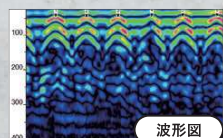
非破壊・微破壊検査では構造物をほとんど傷めることなく、必要な情報を得ることができます。



鉄筋探査

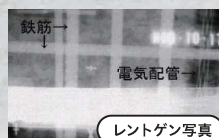


X線探査



波形図

電磁波レーダー法による鉄筋探査



レントゲン写真

X線透過撮影法による内部探査

### その他の非破壊・微破壊検査

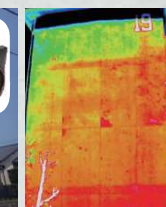
- ・タイルや塗膜の引張試験
- ・ひび割れ深さ調査
- ・部材厚調査
- ・鉄筋の腐食度調査
- ・コンクリートの含水率調査
- ・コンクリートの塩化物試験
- ・不同沈下測定
- ・柱傾斜測定
- ・自然電位法
- ・電磁誘導法
- ・超音波衝撃弾性波

## 赤外線調査

外壁面の温度変化の過程で生じる健全部と浮き部等との温度差を撮影し、外壁劣化部分の推定を行います。



赤外線撮影状況



赤外線画像



コンスファインダーIII 技術審査証明

## 火害調査

調査結果を基に火害等級を判別し、適切な補修・補強方法の提案まで行います。



鉄骨造の火害調査



鉄筋コンクリート造の火害調査



### その他取り扱い業務

目視打診調査

ドローンによる遠隔調査

ブランク等高所調査

耐震診断・補強設計

設備診断

被災度区分判定

省エネ診断

修繕計画策定



## 建物の内外の環境を 工学的な知見で明らかにします。

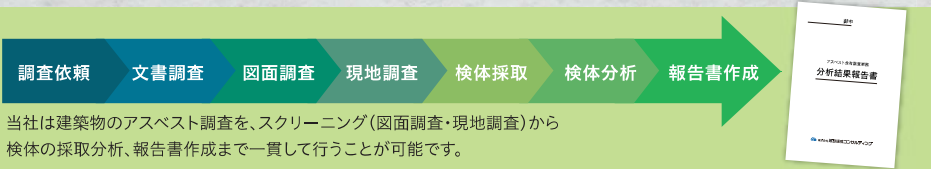
ENVIRONMENTAL SOLUTION

### ■ アスベスト調査・分析・対策(設計)

大気汚染防止法・石綿障害予防規則の改正により、建物の解体・改修工事を実施する前に、アスベスト含有の可能性がある全ての建材(レベル1・2・3)について、

書面・目視・分析等によりアスベスト含有の有無について調査を行わなければなりません。

※2006年以前に建築及び改修をされた建材が対象



#### ● スクリーニング (図面調査・現地調査)

図面で現地やアスベスト含有の有無を確認致します。



図面調査・現地調査

スクリーニング結果まとめ

#### ● 建材サンプリング (検体採取)

粉塵防止剤の噴霧及び養生の措置を行い、安全に採取を致します。



採取状況



採取検体

#### ● 検体分析

自社ラボラトリーにて、JIS A 1481法及び石綿分析マニュアル(厚労省)に基づき各種顕微鏡、X線回析装置を使用し、信頼できる分析に努めております。



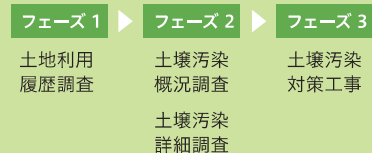
偏光顕微鏡分析状況



クリソタイル顕微鏡写真

### ■ 土壌汚染調査・対策工事

土壌汚染調査・対策工事では、フェーズ1～3まであり、土地利用履歴調査、概況調査、詳細調査、対策工事の3段階に分かれています。



土壌試料採取



土壌汚染対策工事

### ■ PCB・ダイオキシン調査・分析

土壌や焼却灰などに含まれるダイオキシン類、変圧器等の絶縁油やシーリング材等に含まれるPCBの調査を行います。  
(※PCB=ポリ塩化ビフェニル)



ダイオキシン調査(煙突焼却灰)



PCB調査(変圧器)

### ■ 水環境調査・底質調査

水質調査及び底質調査では、水質や底質中の化学物質等の正確な濃度を把握し、灰質抑制対策の立案やその効果の評価等を行います。



水質調査状況

#### その他取り扱い業務

騒音・振動調査

熱環境、結露診断

シックハウス、空気環境測定



確かな現況調査で建物の  
エンジニアリング・レポート、  
定期調査報告書を作成します。

ENGINEERING REPORT

## ■ エンジニアリング・レポート

エンジニアリング・レポート(ER)とは不動産投資・不動産流通・不動産評価・不動産管理などに際して対象不動産の状況を把握するために行うデューデリジェンスです。

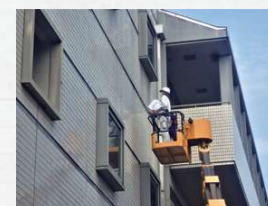


## ■ 特定建築物等定期調査(12条点検)

建築基準法では、一定の要件を満たす建築物(不特定多数の人々が利用する建物)の所有者に対して、建築物の敷地・構造・建築設備について定期に一級建築士等に調査させ、その結果を特定行政庁へ報告するよう定められています。(※建築基準法令は時代の変化や要求に応じ改正されますので注意が必要です。)

□「建築物」の定期調査 □「建築設備」の定期検査 □「防火設備」の定期検査

### 調査状況



テストハンマーによる打診調査



赤外線による調査



ブロック塀調査



建築設備点検



防火戸点検



非常用照明点検



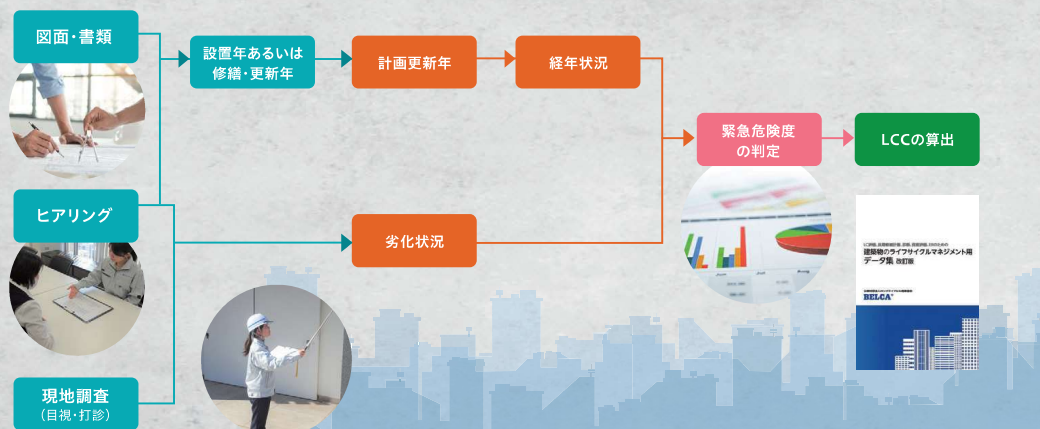
## 劣化診断評価に応じた 既存建築物の活用計画を行います。

新化

SYSTEM DESIGN MANAGEMENT

### 中長期保全システム

施設の現状の劣化や将来発生する改修費用、売買の際の建物価値等を把握し、緊急修繕や短期修繕を除いた長期的な視野で算出します。



#### LCCの算出

生涯費用とも呼ばれるライフサイクルコスト(LCC)の算出では、製品や構造物などの費用を製造・調達～使用～廃棄までをトータルコストで算出します。

#### 総合的耐久性診断 (ビルグリーンシステム)

定期的に建物調査を実施するビルグリーンシステムにより、建物保全をサポートし、ライフサイクルコストを最小限に抑える適切な修繕計画を提案します。

#### ビル・マンション長寿命化

ビル・マンションの定期点検において設備等の点検とともに外壁、コンクリート躯体の劣化状況を確認し、劣化の程度に合った補修方法を選定します。

### 設計業務・監理業務

#### 改修補強設計

劣化や変状について、原因を把握するための調査診断を実施し、必要に応じて構造計算や耐震診断を行います。多種多様な改修補強方法の中から、適切な材料・工法を選択し、提案します。

#### 設備改修設計

建物の設備は、電気・給排水設備等の各種で耐用年数が決められており、定期的な設備更新や修繕を実施し、長期にわたって使用していくことが望めます。当社では、各種の設備改修設計を行います。



#### 解体工事設計

建物の解体に際して、アスベストやPCB、土壌汚染などの有無を調査・分析し、その結果を基に環境に配慮した解体工事設計を行います。

#### 工事監理

建築工事および設備工事を設計図書と照合し、設計図書のとおりに施工されているかの確認を行います。

